



Acronis® Backup & Recovery™ 10 Server for Linux

Update 5

インストール ガイド

目次

1	インストールの前に.....	3
1.1	Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネント.....	3
1.1.1	エージェント for Linux	3
1.1.2	管理コンソール	4
1.1.3	ブータブル メディア ビルダ.....	4
1.2	サポートされるオペレーティング システム.....	4
1.3	システム要件.....	5
1.4	ライセンス ポリシー	5
2	Linux でのインストール.....	7
2.1	準備	7
2.2	対話型モードでのインストール	7
2.3	無人モードでのインストール	7
2.4	コマンドライン パラメータ.....	8
3	試用版から製品版へのアップグレード.....	10
3.1	ライセンスの変更	10
3.2	Linux 用コンポーネントのアップグレード.....	10
4	Acronis Backup & Recovery 10 のスタンドアロン エディションへのアップグレード.....	11
4.1	タスクのインポート	13
5	Acronis Backup & Recovery 10 のアンインストール.....	14
5.1	Acronis Backup & Recovery 10 のアンインストール.....	14
5.2	Acronis セキュア ゾーンの削除	14

1 インストールの前に

ここでは、製品をインストールする前に生じることが予想される疑問点について説明します。

1.1 Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネント

ここでは、Acronis Backup & Recovery 10 のコンポーネントとその機能の概要について説明します。

管理対象のコンピュータ用のコンポーネント（エージェント）

これらは、Acronis Backup & Recovery 10 によって管理されるコンピュータ上でデータのバックアップ、復元、その他の処理を実行するアプリケーションです。各管理対象のコンピュータ上でエージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。エージェントには追加の機能を実行できるようにする複数の機能またはアドオンが含まれているので、追加のライセンスが必要になることがあります。

コンソール

コンソールにはグラフィカル ユーザー インターフェイスが装備され、エージェントにリモートから接続することができます。コンソールの使用にライセンスは必要ありません。

ブータブル メディア ビルダ

ブータブル メディア ビルダを使用して、エージェントや他のレスキュー ユーティリティをレスキュー環境で使用するためのブータブル メディアを作成することができます。レスキュー環境でエージェントのアドオンを使用できるかどうかは、メディア ビルダが動作しているコンピュータにアドオンがインストールされているかどうかによって異なります。

1.1.1 エージェント for Linux

このエージェントを使用して、Linux の下でディスク レベルおよびファイル レベルでデータを保護することができます。

ディスク バックアップ

ディスク レベルのデータ保護では、ディスクまたはボリューム ファイル システム全体とオペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、またはセクタ単位でのすべてのディスク セクタのバックアップ (RAW モード)が基本になります。ディスクまたはボリュームのコピーを含むパッケージ形式のバックアップは、ディスク (ボリューム) バックアップまたはディスク (ボリューム) イメージと呼ばれます。これらのバックアップからはディスクまたはボリュームの全体を復元することも個別のフォルダやファイルを復元することもできます。

ファイル バックアップ

ファイル レベルのデータ保護では、エージェントがインストールされているコンピュータ上あるいは smb または nfs プロトコルを使用してアクセスされるネットワーク共有上に存

在するファイルおよびディレクトリのバックアップが基本になります。ファイルは、元の場所にも別の場所にも復元できます。バックアップされたすべてのファイルとディレクトリを復元することも個別に選択して復元することもできます。

1.1.2 管理コンソール

Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールは、Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux にローカルでアクセスするための管理ツールです。エージェントへのリモート接続はできません。

1.1.3 ブータブル メディア ビルダ

Acronis ブータブル メディア ビルダは、ブータブル メディアを作成するための専用のツールです。Linux 上にインストールするメディア ビルダは、Linux カーネルをベースにしたブータブル メディアを作成できます。

1.2 サポートされるオペレーティング システム

Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソール、Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux

- Linux 2.4.18 以降のカーネル（2.6.x カーネルを含む）および glibc 2.3.2 以降
- 以下を含む、各種 32 ビットおよび 64 ビット Linux ディストリビューション
 - Red Hat Enterprise Linux 4.x および 5.x
 - Red Hat Enterprise Linux 6
 - Ubuntu 9.04 (Jaunty Jackalope)、9.10 (Karmic Koala)、および 10.04 (Lucid Lynx)
 - Fedora 11 および 12
 - SUSE Linux Enterprise Server 10 および 11
 - Debian 4 (Lenny) および 5 (Etch)
 - CentOS 5
- エージェント for Linux は、実際には 32 ビットの実行可能ファイルです。エージェントは、認証のためにシステム ライブラリを使用します。64 ビットのディストリビューションでは、デフォルトでシステム ライブラリの 32 ビット版がインストールされない場合があります。64 ビットの RedHat ベースのディストリビューション（RHEL、CentOS、Fedora など）または 64 ビットの SUSE ディストリビューションでエージェントを使用する場合は、次の 32 ビットのパッケージがシステムにインストールされていることを確認してください。

pam.i386

libselinux.i386

libsepol.i386

これらのパッケージは、お使いの Linux ディストリビューションのレポジトリで使用できるようにしておく必要があります。

- RPM パッケージ マネージャを使用していないシステム（Ubuntu システムなど）に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルート ユーザーとして次のコマンドを実行するなどしてこのマネージャを手動でインストールする必要があります。

```
apt-get install rpm
```

1.3 システム要件

Linux でインストールされるコンポーネント

エディション名	メモリ (OS および実行中のアプリケーションに必要な容量)	インストールまたは更新に必要なディスク領域	コンポーネントが使用するディスク領域	追加
Server for Linux	120 MB	400 MB	240 MB	画面解像度 1024 x 768 ピクセル以上
ブータブル メディア ビルダ (Linux)	70 MB	240 MB	140 MB	

ブータブル メディア

メディアの種類	メモリ	ISO イメージ サイズ	追加
Linux ベース	256 MB	130 MB	

1.4 ライセンス ポリシー

Acronis Backup & Recovery 10 のライセンス数は、製品によって管理および保護するコンピュータの数に基づきます。各管理対象のコンピュータ上で Acronis Backup & Recovery 10 エージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。ライセンスの確認方法は、スタンドアロン製品のエディション、および集中管理が可能なエディションによって異なります。

スタンドアロン エディション

次のエディションがあります。

Acronis Backup & Recovery 10 Server for Windows (ABR10 SW)

Acronis Backup & Recovery 10 Server for Linux (ABR10 SL)

Acronis Backup & Recovery 10 Workstation (ABR10 W)

いずれかのエディションで提供されるエージェントをインストールするには、Acronis Backup & Recovery 10 の適切なエディションのライセンス キーが必要になります。ライセンス キーは、エージェントのインストール時に入力します。

集中管理が可能なエディション

次のエディションがあります。

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server (ABR10 AS)

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition (ABR10 AS VE)

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server SBS Edition (ABR10 AS SBS)

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Workstation (ABR10 AW)

これらのエディションには、エージェントのインストール前にインストールする必要がある Acronis ライセンス サーバーが含まれています。ライセンス キーは、サーバーのインストール時またはインストール後に、.txt ファイルまたは .eml ファイルから Acronis ライセンス サーバーにインポートできます。ABR10 AS の場合、1 つのライセンス キーで 1 台の物理ホストと 4 つの仮想コンピュータにエージェントをインストールできます。ABR10 AS VE では、1 つのライセンス キーで 1 台の物理ホストと任意の数のホストされている仮想コンピュータにエージェントをインストールできます。

Acronis Backup & Recovery 10 エージェントは、エージェント サービスの開始時、およびエージェントの設定パラメータに従って 1 ~ 5 日ごとに Acronis ライセンス サーバーに接続します。エージェントがライセンス サーバーに接続できなかったり、適切なライセンス キーが 1 ~ 60 日間（設定パラメータで指定されます）にわたって見つからない場合は、ライセンスが正常に確認されるまで処理を停止します。

デフォルトでは、エージェントはライセンス サーバーに対して毎日接続を試行し、ライセンス サーバーまたはライセンスがなくても 30 日間機能します。

ライセンスの取り消し

管理対象のコンピュータのサービスが永続的に停止されて交換された場合、またはコンピュータのネットワーク カードが交換された場合（この場合、通常は MAC アドレスが変更されます）、対応するライセンスを取り消して、そのライセンスを再度使用できます。

アクロニスのエンド ユーザー使用許諾契約書には、次のように記されています。

永続的なハードウェア障害により、ライセンス取得済みのハードウェアを廃棄する場合、ソフトウェア ライセンスを再割り当てすることができます。ソフトウェア ライセンスを再割り当てする場合、ライセンスを再割り当てするハードウェアは、特定のソフトウェア ライセンスについて新規にライセンスを取得したハードウェアになります。

2 Linux でのインストール

ここでは、Linux を実行しているコンピュータに Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントをインストールする方法について説明します。

コマンドライン パラメータを使用すると、無人インストール モードで製品をインストールできます。

2.1 準備

RPM パッケージ マネージャがシステムにインストールされていることを確認してください。RPM を使用していない Linux ディストリビューション (Ubuntu など) に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルート ユーザーとして次のコマンドを実行するなどして RPM を手動でインストールする必要があります。

```
apt-get install rpm
```

RPM をインストール済みの Linux ディストリビューションは、Red Hat Enterprise Linux、Fedora、SUSE Linux Enterprise Server などがあります。

インストール ファイル **AcronisBackupRecoveryServerLinux.i686** が必要です。ファイルには実行に必要なアクセス権限を必ず割り当ててください。

2.2 対話型モードでのインストール

1. インストール ファイル **AcronisBackupRecoveryServerLinux.i686** を実行します。
2. 使用許諾契約を読み、**[次へ]** を選択します。
3. **[ライセンス キーを入力する]** を選択し、Acronis Backup & Recovery 10 のライセンス キーを入力します。
4. インストールするエディションの選択を求められたら、**[次へ]** を選択します。
5. インストールするコンポーネントを選択します。

注意: Acronis True Image Echo からアップグレードする場合にのみ、Acronis Backup & Recovery 10 アップグレード ツールが必要です。

6. Linux カーネル用に SnapAPI モジュールをコンパイルするかどうかの確認が求められます。**[続行]** を選択してすぐにモジュールをコンパイルするか (推奨)、**[スキップ]** を選択して後から手動でコンパイルします。

注意: Linux ディストリビューションに必要なモジュールをセットアップ プログラムでコンパイルできなかった場合、またはモジュールを後から手動でコンパイルすることを選択した場合は、**/usr/lib/Acronis/BackupAndRecovery/HOWTO.INSTALL** ファイルを参照してください。

2.3 無人モードでのインストール

確認を求められない無人モードで製品やそのコンポーネントをインストールするには、インストール ファイルを **-a** コマンドライン パラメータで実行します。場合によっては、他のパラメータ『8ページ』を使用してインストールの実行方法を指定する必要があります。

たとえば、次のコマンドは、ライセンス キー 12345-7890-ABCDE を使用して、無人モード(確認を求められません)で Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux と Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールをインストールします。

```
./AcronisBackupRecoveryServerLinux.i686 -a -i  
BackupAndRecoveryAgent,ManagementConsole -l 12345-67890-ABCDE
```

2.4 コマンドライン パラメータ

AcronisBackupRecoveryServerLinux.i686 インストール ファイルを実行する場合は、1 つ以上のコマンド パラメータを指定できます。

パラメータ

-a または --auto

デフォルトの対話型モードではなく、いわゆる無人セットアップ モードでインストールを実行します。

セットアップ プログラムは、ライセンス キーの入力や【次へ】のクリックなどのユーザーによる操作を要求せずに続行されます。-l パラメータを使用して、ライセンス キーを指定します。-i パラメータを使用して、インストールするコンポーネントを指定します。

SnapAPI モジュールのコンパイルが必要で、コンパイルが可能な場合は、セットアップ プログラムは自動的にモジュールをコンパイルします。それ以外の場合は、コンパイルをスキップします。

-n または --nodeps

無人セットアップ中の依存関係を無視します。このオプションは無人セットアップ モードでのみ有効です(上記のパラメータ -a を参照)。

-u または --uninstall

コンポーネントをアンインストールします。ライセンス キーを指定する必要はありません。

-d または --debug

インストール ログに詳細な情報を書き込みます。

-i ComponentName または --id=ComponentName

インストールするコンポーネント名を指定します。

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux: **BackupAndRecoveryAgent**

Acronis Backup & Recovery 10 ブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダ: **BackupAndRecoveryBootableComponents**

Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソール: **ManagementConsole**

Acronis Backup & Recovery 10 アップグレード ツール: **AcronisUpgradeTool**

このパラメータを指定しないと、すべてのコンポーネントがインストールされます。

-l LicenseKey または --serial=LicenseKey

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux と Acronis メディア ビルダにのみ適用されます。

コンポーネントのライセンス キーを指定します。

-v または --version

製品のバージョンを表示して終了します。

-? または **--help**

ヘルプを表示して終了します。

--usage

使用法に関する簡単なメッセージを表示して終了します。

3 試用版から製品版へのアップグレード

インストールに必要な試用版のライセンス キーは、Acronis Web サイトで入手できます。

Acronis Backup & Recovery 10 の試用版には、ブータブル メディアについて次のような制限事項があります。

- ディスク管理機能を使用できますが、変更を適用するオプションはありません。
- ディスク管理以外では、復元機能のみを使用できます。

試用版から標準の製品にアップグレードするために、ソフトウェアを再ダウンロードする必要はありません。試用期間が終了すると、標準のライセンス キーを指定するように求める通知が製品の GUI に表示されます。

標準のライセンス キーを指定するには、管理コンソールの【**ライセンスの変更**】ウィンドウを使用するか、セットアップ プログラムを実行して指示に従います。

3.1 ライセンスの変更

ライセンスを変更することで、異なるバージョンまたはエディションの製品に切り替えます。次の表は、使用可能なオプションを示しています。

ライセンスの切り替え	切り替えが必要な理由
試用版 > 製品版	試用版から製品版にアップグレードする。
試用版 > 試用版の異なるエディション	個々のニーズにより適したエディションを明確にする。
試用版 > 製品版の異なるエディション	購入したエディションが試用版のエディションとは異なる。

Acronis Deduplication や Acronis Universal Restore が切り替え先のバージョンやエディションで利用可能な場合は、追加のライセンスを使用することで、これらを有効にすることもできます。

アドバンスド エディション とスタンドアロン版の間で切り替えを行うことはできません。

ライセンスを変更する手順は、次のとおりです。

1. 【ヘルプ】→【**ライセンスの変更**】をクリックします。

新しいライセンス キーを入力します。

3.2 Linux 用コンポーネントのアップグレード

製品版のライセンス キーを指定するには、**AcronisBackupRecoveryServerLinux.i686** インストール ファイルを実行し、「インストール手順 『7ページ』」セクションの説明に従って操作を進めます。ライセンス キーを求められたら、製品版のライセンス キーを入力します。

4 Acronis Backup & Recovery 10 のスタンドアロン エディションへのアップグレード

ここでは、Acronis True Image Echo Server for Linux から Acronis Backup & Recovery 10 Server for Linux にアップグレードする方法について説明します。

準備

アップグレードに進む前に、次の項目を確認します。

- Acronis True Image Echo Server for Linux のプロダクト キーを保有している。
- Acronis Backup & Recovery 10 Server for Linux のアップグレード プロダクト キーを保有している。

コンポーネントのインストール

1. Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ ファイル (AcronisBackupRecoveryServerLinux.i686) を実行します。
2. Acronis True Image Echo Server for Linux のアップグレード プロダクト キーおよびプロダクト キーを指定します。
3. 現在インストールされている製品のコンポーネントが削除されていることを確認します。
4. Acronis True Image Echo のバックアップ タスクとベリファイ タスクをインポートする場合、**アップグレード ツール** コンポーネントのインストールが選択されていることを確認します。選択されていない場合は選択します。
5. 画面の指示に従います。詳細については、「Linux でのインストール 『7ページ』」をご参照ください。

結果:

- Acronis True Image Echo コンポーネントは、Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントに置き換えられます。

タスクのインポート

エージェントのアップグレード後に、Acronis True Image Echo のバックアップ タスクとベリファイ タスクを Acronis Backup & Recovery 10 にインポートする必要がある場合があります。これらのタスクをインポートしない場合、タスクは実行されません。タスクは、いつでもインポートできます。

注意: Acronis バックアップ サーバーにデータをバックアップするタスク、またはそこに保存されているアーカイブをベリファイするタスクは、Acronis Backup & Recovery 10 にインポートされません。

古いタスクをインポートするには、Acronis Backup & Recovery 10 アップグレード ツールを使用します。

1. 現在のディレクトリを次のディレクトリに変更します。/usr/lib/Acronis/UpgradeTool
2. 次のコマンドを実行します。

```
./UpgradeTool.sh Agent
```

結果:

- Acronis True Image Echo に存在していたタスクは Acronis Backup & Recovery 10 のタスクに変換され、**[バックアップの計画およびタスク]** ビューに表示されます。
- 各バックアップ タスクのスケジュール、バックアップする項目、およびバックアップの保存先は以前と同じですが、その後のバックアップを実行するためにタスクによって新しいアーカイブが作成されます。
- 各バックアップ タスクは、バックアップ計画の一部です。バックアップ計画を編集して、タスクのスケジュールまたはその他のパラメータを変更できます。

古いオプションのインポート

アップグレード ツールを使用すると、Acronis True Image Echo のデフォルトのバックアップ オプション、デフォルトの復元オプション、通知オプション、およびイベント トレース オプションを Acronis Backup & Recovery 10 のデフォルトのバックアップ オプションと復元オプションにインポートすることができます。

古いオプションをインポートする手順は、次のとおりです。

1. 現在のディレクトリをアップグレード ツールがインストールされているディレクトリに変更します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
./UpgradeTool.sh Options
```

古いオプションは次のようにインポートされます。

- **[通知]** は、デフォルトのバックアップ オプションおよびデフォルトの復元オプションに **[通知]** としてインポートされます。
- **[イベント トレース]** は、デフォルトのバックアップ オプションおよびデフォルトの復元オプションに **[イベント トレース]** としてインポートされます。
- **[アーカイブの分割]** は、**[バックアップの分割]** としてインポートされます。
- **[メディア コンポーネント]** で、**[Acronis ワンクリック リストアをメディアに配置する]** チェックボックスのみがオンになっている場合、**[Acronis ブータブル エージェントおよびワンクリック リストア]** としてインポートされます。
- **[作成完了時にバックアップ アーカイブをベリファイする]** は、**[その他の設定]** からデフォルトのバックアップ オプションまたはデフォルトの復元オプションにインポートされません。
- デフォルトの復元オプションには、**[復元から除外するファイル]**、**[ファイル上書きモード]**、および **[パスを復元せずにファイルやフォルダを復元する]** (**[その他の設定]**)はインポートされません。
- その他のオプションは、デフォルトのバックアップ オプションおよびデフォルトの復元オプションの対応するオプションにインポートされます。

Acronis True Image Echo によって作成されたバックアップ アーカイブの使用

Acronis Backup & Recovery 10 にアップグレードした後に、Acronis True Image Echo によって作成されたバックアップからデータを復元できます。

これらのバックアップに簡単にアクセスできるようにするには、バックアップを配置する個人用格納域を作成します。個人用格納域の作成方法については、**ユーザーズ ガイド**の「**個人用格納域での操作**」をご参照ください。

個人用格納域には、Acronis True Image Echo のアーカイブおよび Acronis Backup & Recovery 10 のアーカイブの両方を保存できます。この格納域は、新しいバックアップ計画の保存先として指定できます。

4.1 タスクのインポート

Acronis True Image Echo からタスクをまとめてインポートする代わりに、アップグレード ツールを使用して、特定のバックアップまたはベリファイ タスクをインポートできます。

注意: Acronis バックアップ サーバーにデータをバックアップするタスク、またはそこに保存されているアーカイブをベリファイするタスクはインポートできません。

Acronis True Image Echo は各タスクを .tis ファイルとして保存します。デフォルトでは、これらのファイルは `/etc/Acronis/TrueImage/Scripts` ディレクトリにあります。

.tis ファイルの名前は、6AED5F49-7EED-4E3E-939E-19360A44137F.tib.tis のような、汎用一意識別子 (UUID) です。各ファイルは XML 形式です。このファイルの `<display>` タグは、タスクの一覧に表示されるタスク名を指定します。

タスクをインポートする手順は、次のとおりです。

1. インポートするタスクのファイル名を特定します。たとえば、`<display>` タグの内容を調べます。
2. 現在のフォルダをアップグレード ツールがインストールされているフォルダに変更します。
3. 次のコマンドを実行し、タスクのファイル名を指定します。

```
./UpgradeTool.sh Script -f  
/etc/Acronis/TrueImage/Scripts/6AED5F49-7EED-4E3E-939E-19360A44137F.tib.tis"
```

実行の結果、タスクは Acronis Backup & Recovery 10 タスクとしてインポートされ、バックアップ計画の一部になります。

5 Acronis Backup & Recovery 10 のアンインストール

このセクションでは、Acronis Backup & Recovery 10 のアンインストールについて説明します。

5.1 Acronis Backup & Recovery 10 のアンインストール

Acronis Backup & Recovery 10 をアンインストールする手順は、次のとおりです。

root ユーザーとして、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、他の Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントをアンインストールします。

```
# cd /usr/lib/Acronis/BackupAndRecovery/uninstall
# ./uninstall
# cd /usr/lib/Acronis/BootableComponents/uninstall
# ./uninstall
# cd /usr/lib/Acronis/BackupAndRecoveryConsole/uninstall
# ./uninstall
# cd /usr/lib/Acronis/UpgradeTool/uninstall
# ./uninstall
```

2. 次のコマンドを実行して、SnapAPI モジュールのソース ファイルを削除します。

```
# rm -rf /usr/src/snapapi*
```

すべてのコンポーネントを無人モードでアンインストールするには、各 `./uninstall` コマンドに `-a` オプションを付けて実行します。

5.2 Acronis セキュア ゾーンの削除

Acronis Backup & Recovery 10 をアンインストールしても、Acronis セキュア ゾーンとその内容が影響を受けることはありません。引き続き、ブータブル メディアから起動するときに Acronis セキュア ゾーンからデータをリカバリすることができます。

Acronis セキュア ゾーンを削除する必要がある場合は、エージェントをアンインストールする前に、オペレーティング システムまたはブータブル メディアで次の手順を実行します。

Acronis セキュア ゾーンを削除する手順は、次のとおりです。

1. **[Acronis セキュア ゾーン] の操作** バー（**[アクションとツール]** ペイン）で、**[削除]** を選択します。
2. **[Acronis セキュア ゾーン] の削除** ウィンドウで、セキュア ゾーンから解放される領域を追加するボリュームを選択し、**[OK]** をクリックします。

複数のボリュームを選択した場合、領域は各パーティションのサイズに比例して分配されます。ボリュームを選択しない場合は、空き領域は未割り当てになります。

[OK] をクリックすると、Acronis Backup & Recovery 10 によってゾーンの削除が開始されます。